

# 第 2 章

---

## 調査結果



## 第2章 調査結果

### 1 体格 (BMI の状況)

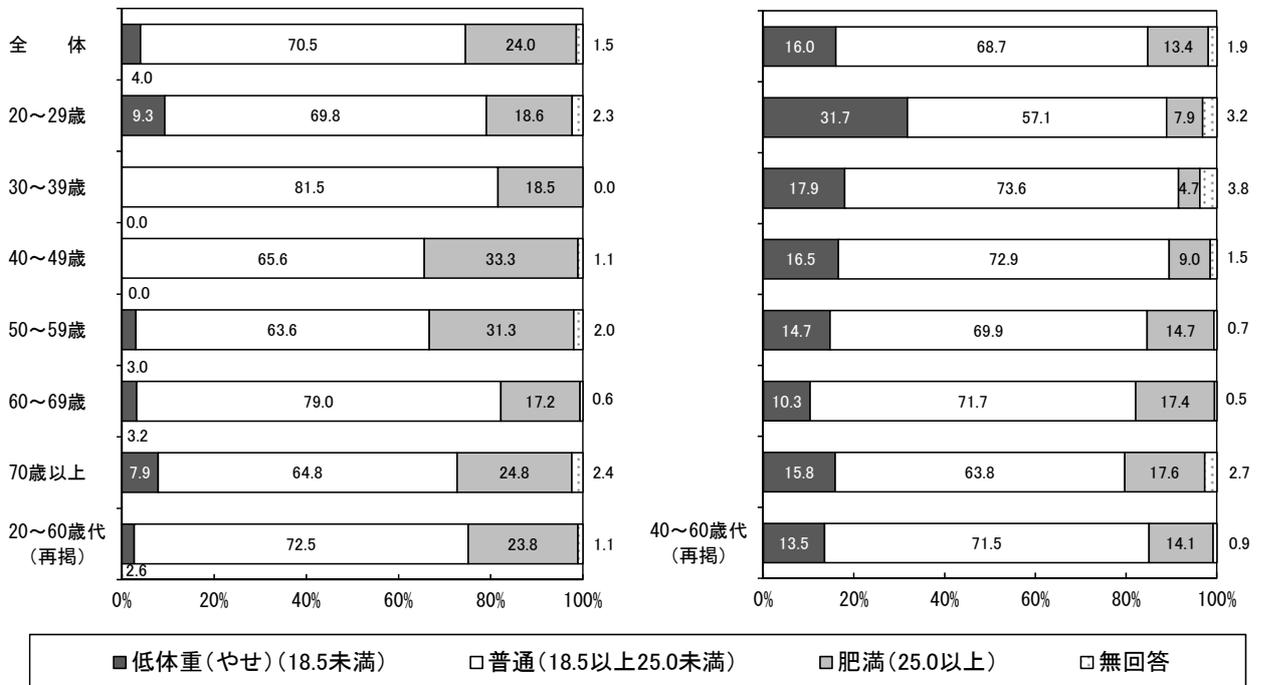
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の2割強が肥満 (BMI25.0以上)、女性の2割弱が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は40歳代 (33.3%) で最も高く、以下50歳代 (31.3%)、70歳以上 (24.8%) と続き、これらの年代で2割強となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は70歳以上 (17.6%) で2割弱と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、20歳代 (31.7%) で3割強と最も高くなっている。

図1.1 BMI区分による肥満・普通・やせの者の割合  
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

BMI = 体重 [kg] ÷ 身長 [m] ÷ 身長 [m] により算出  
 BMI < 18.5                      低体重 (やせ)  
 18.5 ≤ BMI < 25.0              普通体重 (正常)  
 25.0 ≤ BMI                        肥満

## 2 「食育」に対する意識

### 「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることであります。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身につけたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

### (1) 「食育」への関心度

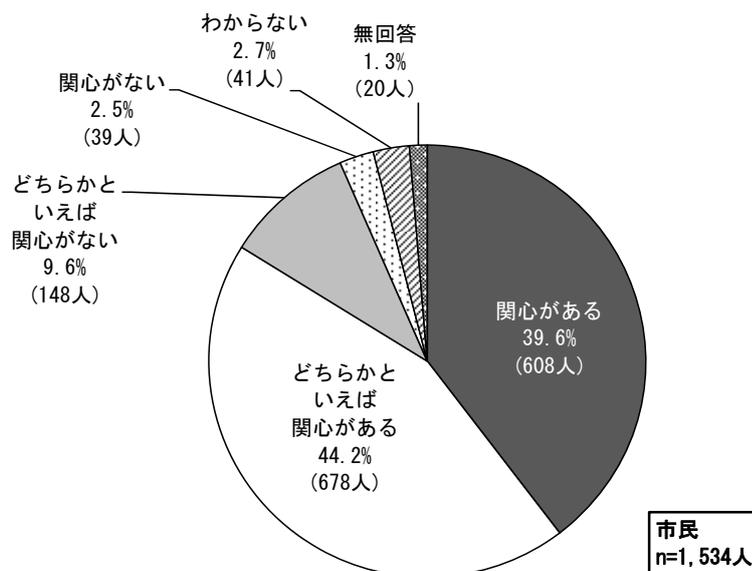
問7 あなたは、食(食事や食習慣)に関心がありますか。(○は1つだけ)

8割強が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

#### 【全体結果】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は8割強(83.8%)で、「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と回答した人の割合は1割強(12.1%)となっている。

図2.1 「食育」への関心度



## 【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性(79.3%)に対し女性(88.7%)の方が高くなっている。特に30歳代と50歳代の女性が高く、9割強となっている。

図2.2 「食育」への関心度(年齢別・全体)

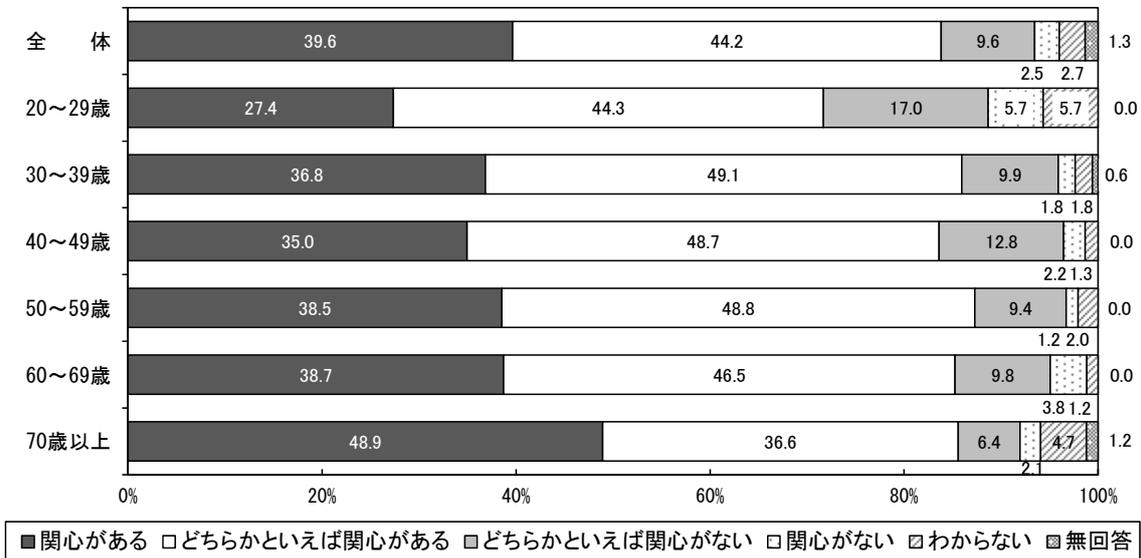
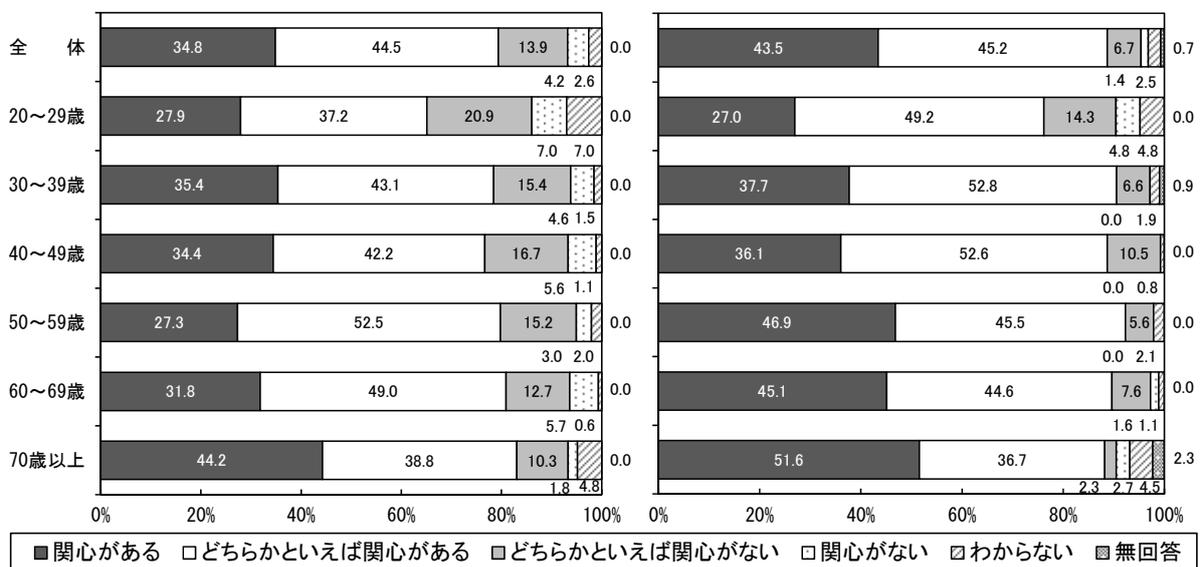


図2.3 「食育」への関心度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

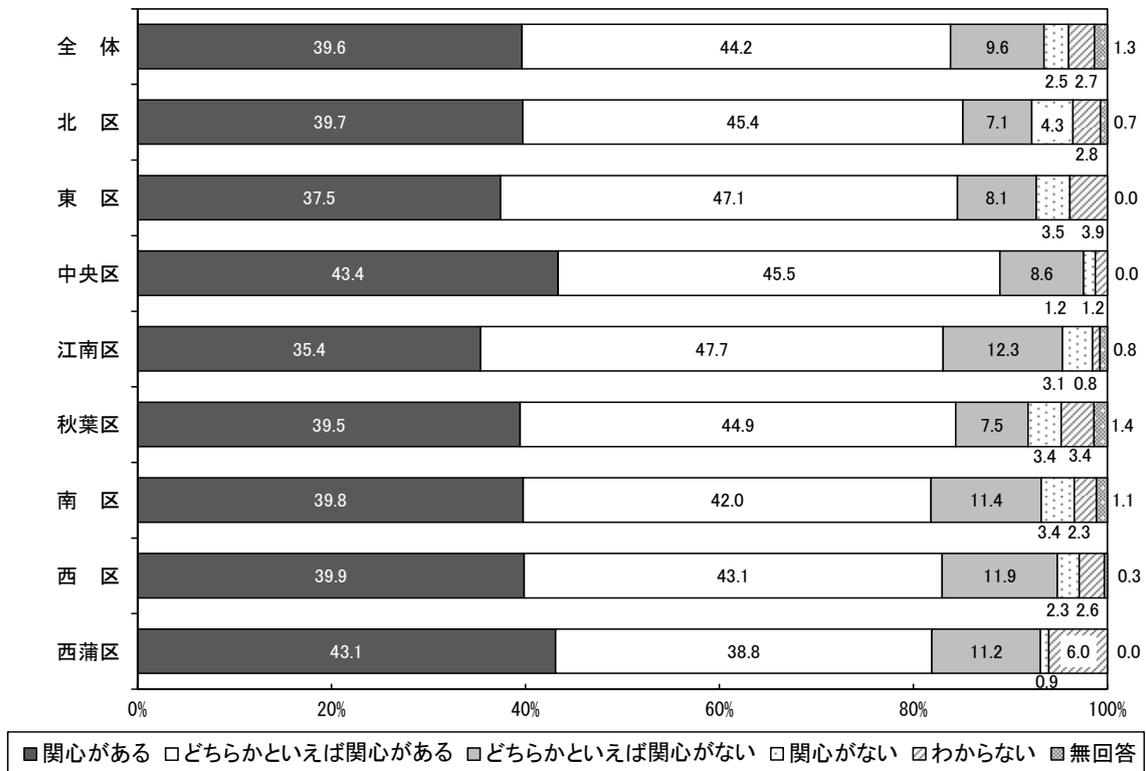
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、中央区（88.9%）で最も高く、南区（81.8%）で最も低くなっている。

図 2.4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

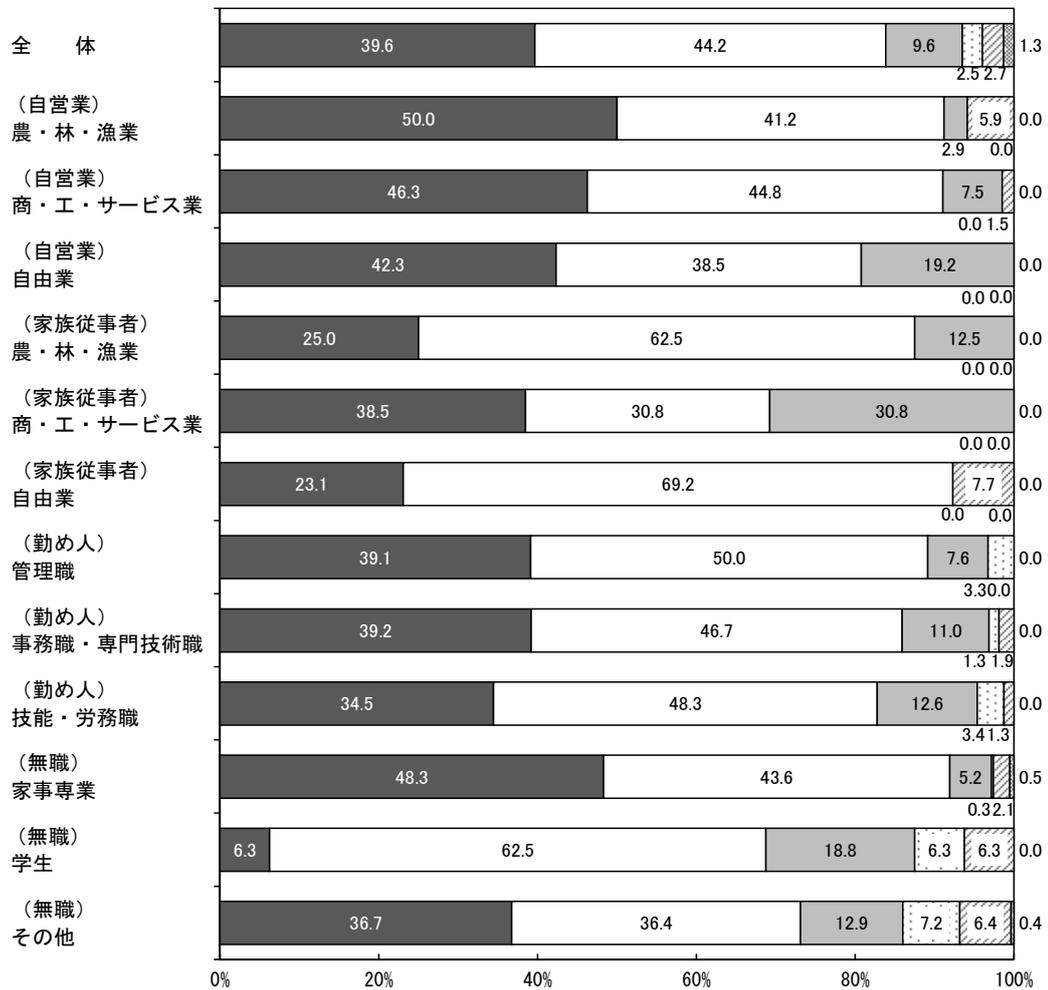
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5 「食育」への関心度（職業別）



■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある □ どちらかといえば関心がない □ 関心がない □ わからない ■ 無回答

全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

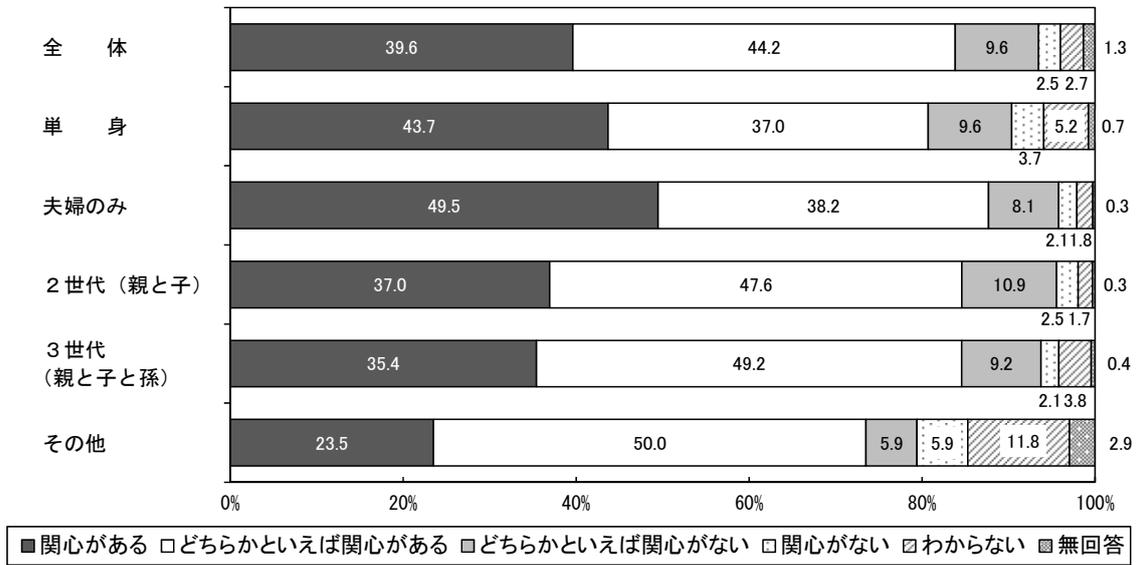
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、夫婦のみ（87.7%）で最も高くなっている。

図 2.6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## (2)「食育」の実践度

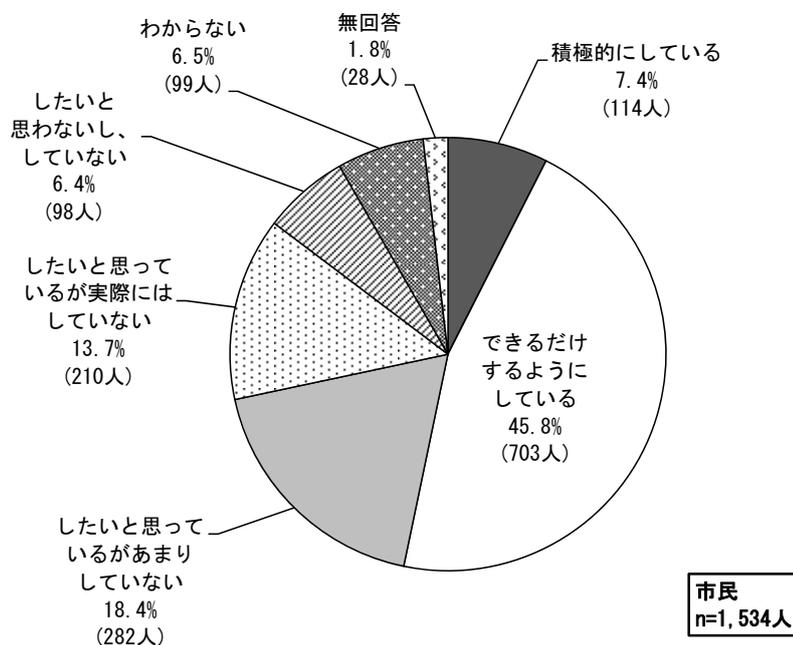
問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

5割強が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

## 【全体結果】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は5割強(53.2%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は3割強(32.1%)で、「したいとは思わないし、していない」と回答した人の割合は1割弱(6.4%)となっている。

図3.1 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図3.2 「食育」の実践度（年齢別・全体）

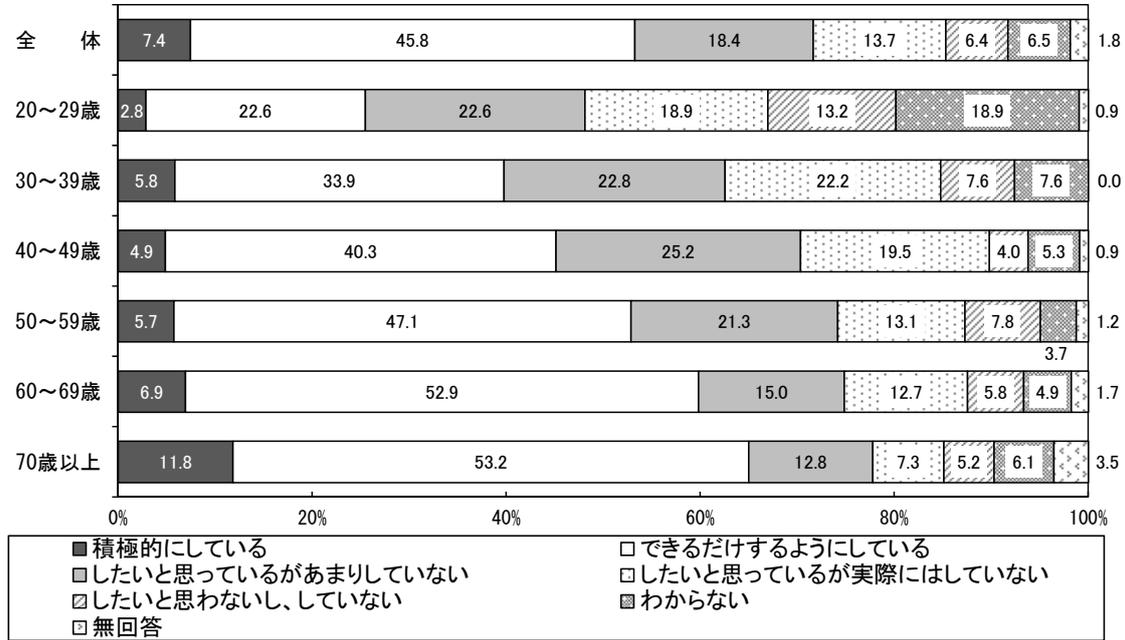
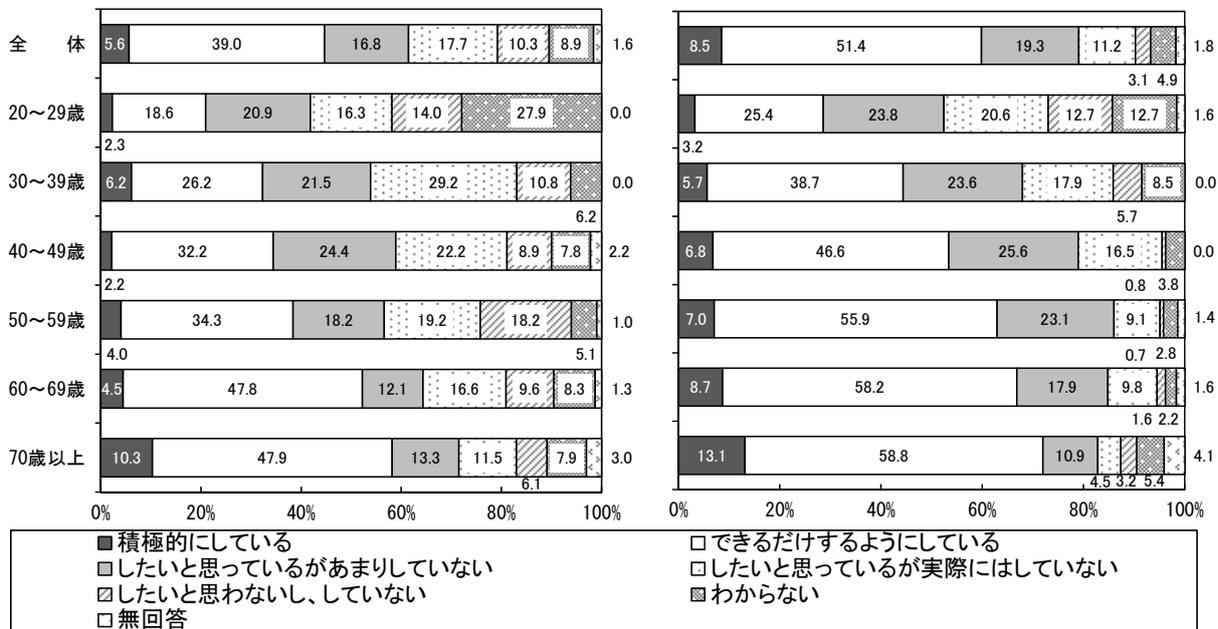


図3.3 「食育」の実践度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

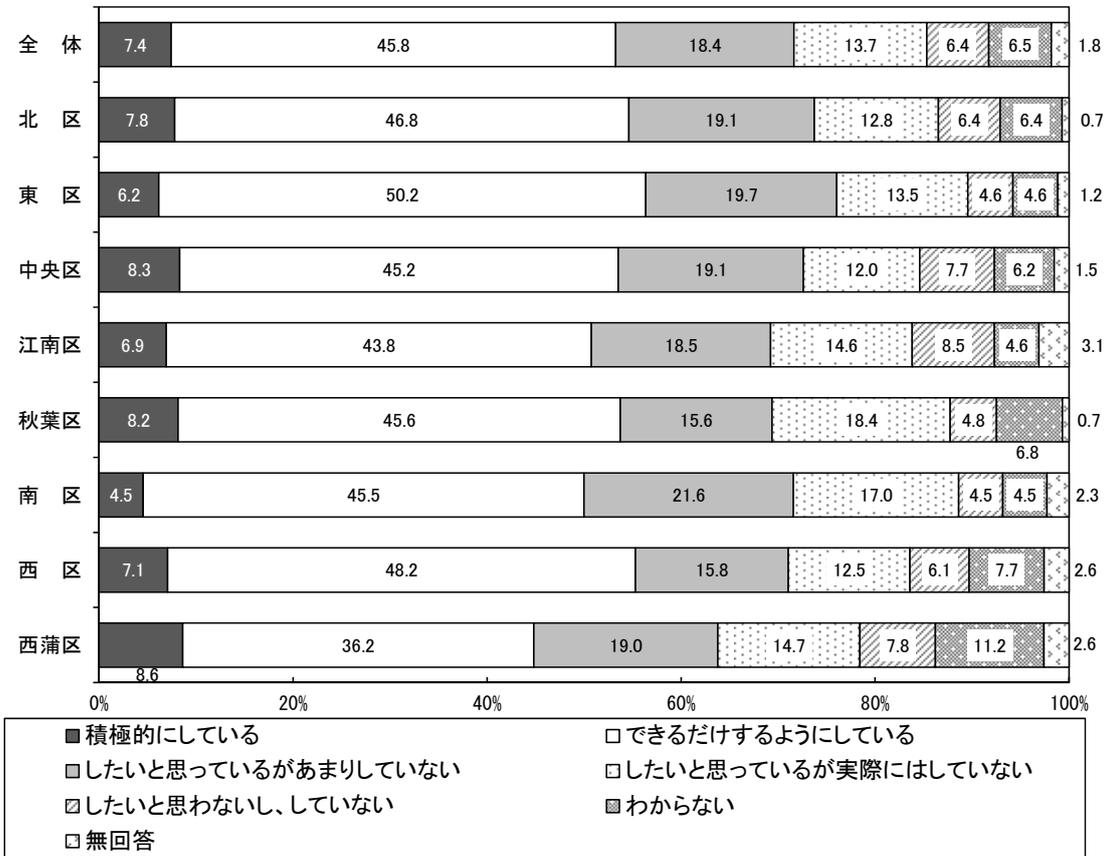
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、東区（56.4%）で最も高く、6割弱となっている。西蒲区（44.8%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 3.4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

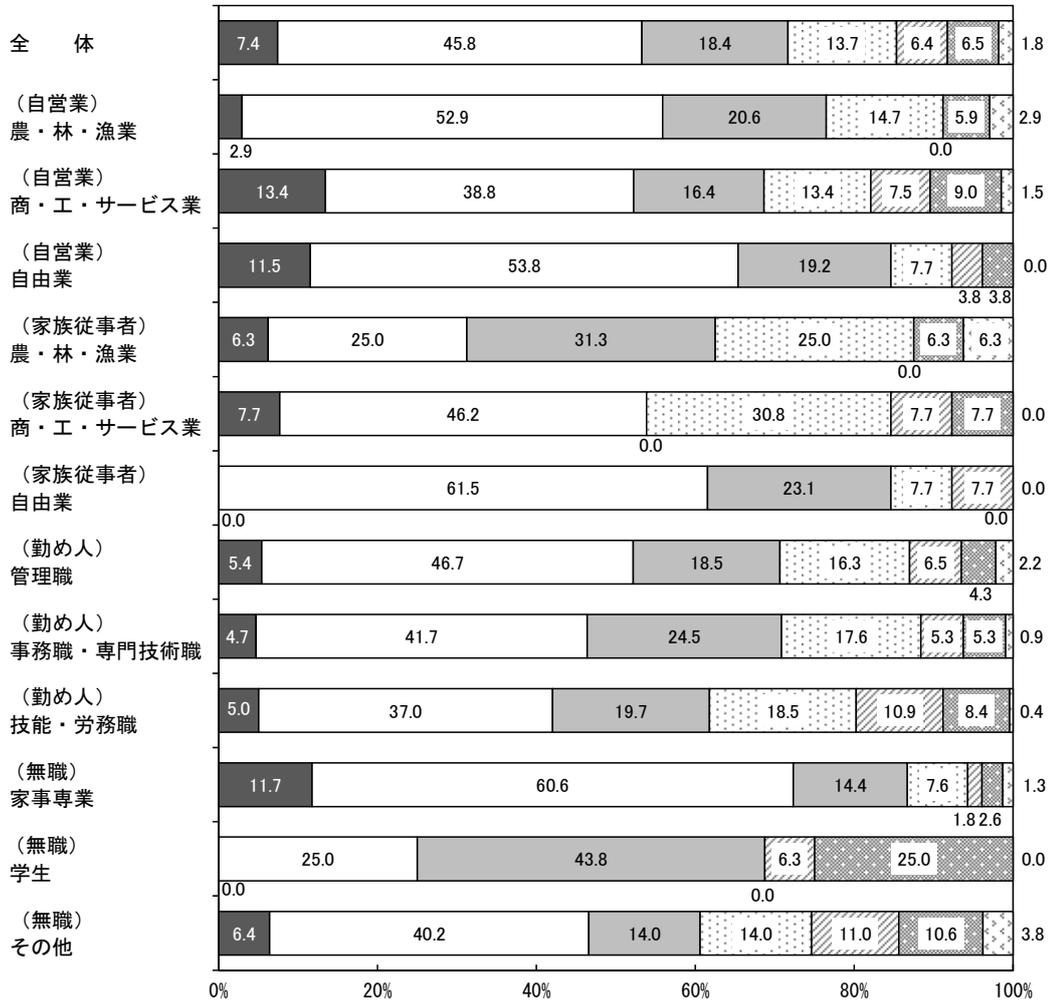
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図3.5 「食育」の実践度（職業別）



積極的にしている  
 できるだけするようにしている  
 したいと思っているがあまりしていない  
 したいと思っているが実際にはしていない  
 したいと思わないし、していない  
 わからない  
 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

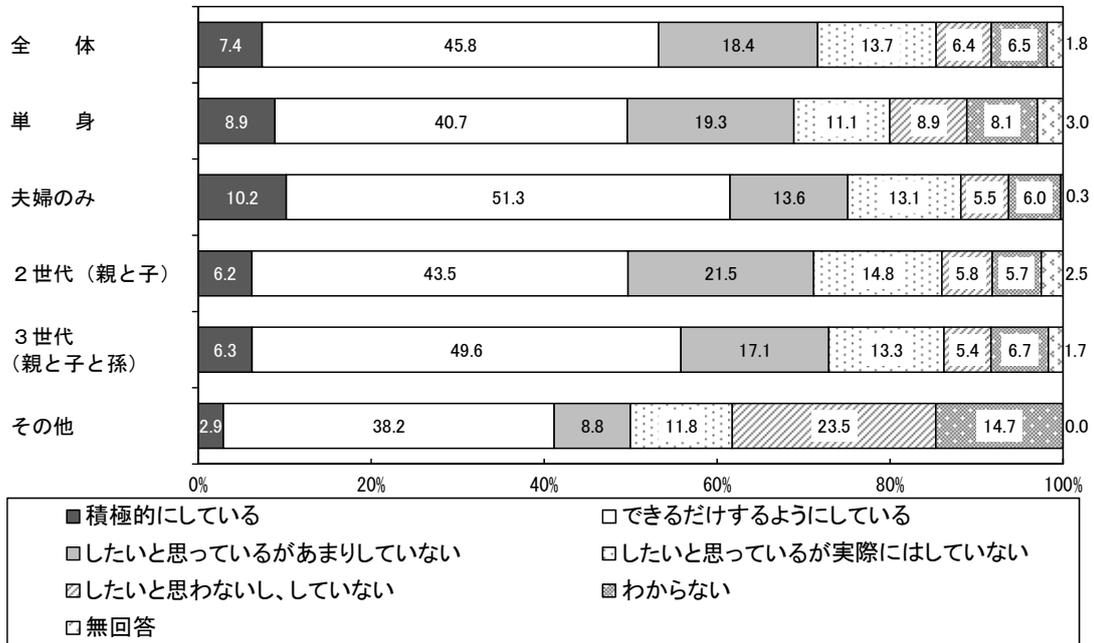
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（61.5%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.3%）でやや高くなっている。

図 3.6 「食育」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## (3) 食育を実践していない理由

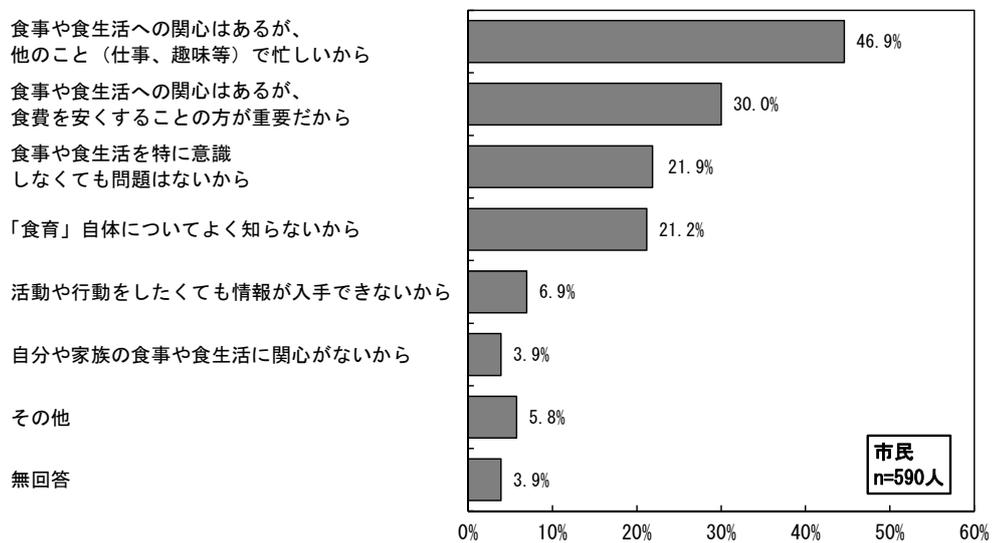
問8-1 あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が5割弱

## 【全体結果】

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人が5割弱（46.9%）と最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（30.0%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（21.9%）、「食育」自体についてよく知らないから」（21.2%）、「活動や行動をしたくても情報が入手できないから」（6.9%）、と続いている。

図4.1 食育を実践していない理由



全体	他の食事や食生活への関心はあるが、仕事、趣味等で忙しいから	食事や食生活を安くすることの関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
590	263	177	129	125	41	23	34	23

(人)

## 【性別・年齢別】

50歳代以下では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。60歳代以上では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」と回答した人が最も多くなっている。

性別では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（男性41.7%、女性49.1%）、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（男性23.4%、女性36.5%）の割合は女性の方が高く、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（男性26.3%、女性16.5%）、「食育」自体についてよく知らないから」（男性25.5%、女性17.5%）の割合は男性の方が高くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	他食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をできないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	590	44.6	30.0	21.9	21.2	6.9	3.9	5.8	3.9
20～29歳	58	55.2	31.0	15.5	24.1	5.2	5.2	3.4	1.7
30～39歳	90	55.6	27.8	10.0	33.3	10.0	5.6	3.3	0.0
40～49歳	110	66.4	30.9	14.5	16.4	5.5	2.7	2.7	0.9
50～59歳	103	49.5	35.0	17.5	22.3	7.8	1.9	5.8	1.0
60～69歳	116	31.9	31.9	33.6	18.1	8.6	6.0	7.8	1.7
70歳以上	107	15.0	21.5	35.5	17.8	3.7	2.8	10.3	15.9
年齢不明	6	66.7	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7

対象者：人／回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	他の食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしなくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	278	41.7	23.4	26.3	25.5	6.1	5.4	4.0	2.2
20～29歳	22	50.0	22.7	13.6	31.8	4.5	4.5	4.5	0.0
30～39歳	40	50.0	20.0	12.5	40.0	7.5	10.0	2.5	0.0
40～49歳	50	64.0	20.0	22.0	22.0	8.0	6.0	0.0	0.0
50～59歳	55	49.1	27.3	14.5	30.9	1.8	1.8	9.1	0.0
60～69歳	60	25.0	30.0	35.0	21.7	10.0	5.0	3.3	1.7
70歳以上	51	21.6	17.6	49.0	13.7	3.9	5.9	3.9	9.8
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	他の食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしなくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	285	49.1	36.5	16.5	17.5	8.1	2.8	7.7	4.9
20～29歳	36	58.3	36.1	16.7	19.4	5.6	5.6	2.8	2.8
30～39歳	50	60.0	34.0	8.0	28.0	12.0	2.0	4.0	0.0
40～49歳	57	68.4	40.4	8.8	12.3	3.5	0.0	5.3	1.8
50～59歳	47	51.1	44.7	19.1	12.8	14.9	2.1	2.1	2.1
60～69歳	54	40.7	35.2	29.6	14.8	7.4	7.4	13.0	1.9
70歳以上	41	9.8	26.8	17.1	19.5	4.9	0.0	19.5	24.4
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

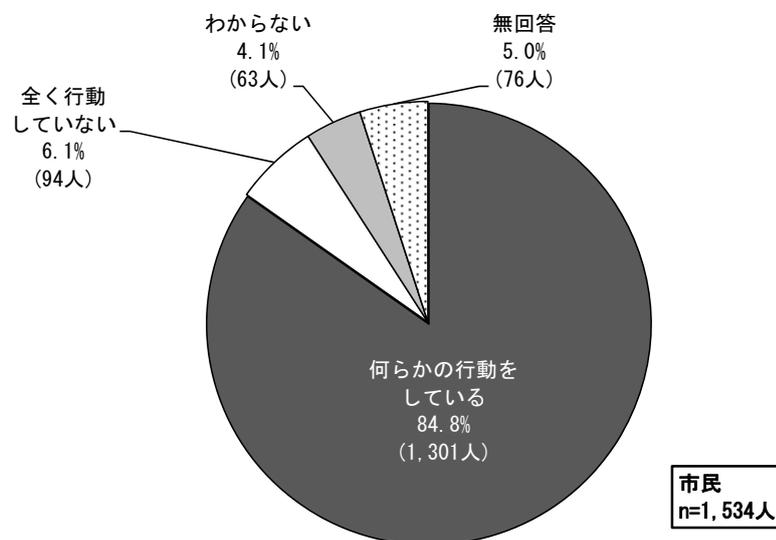
## (4) 食べ物を無駄にしないための行動

問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (○は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

## 【全体結果】

食べ物を無駄にしないための行動については、「何らかの行動をしている」(84.8%)と回答した人が最も多く、以下「全く行動していない」(6.1%)、「わからない」(4.1%)と続いている。



【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、30歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 5.2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

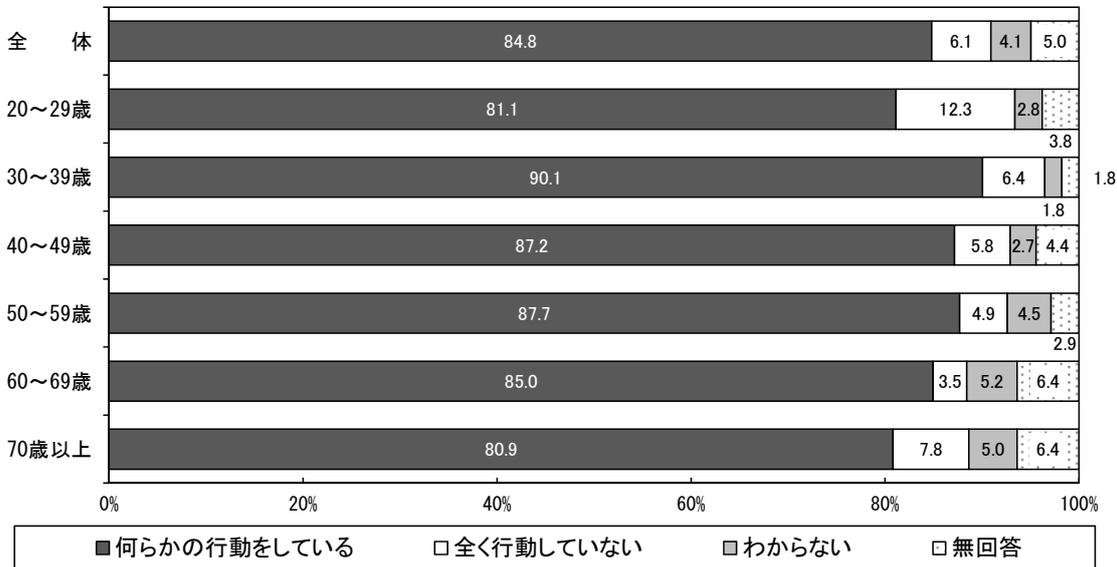
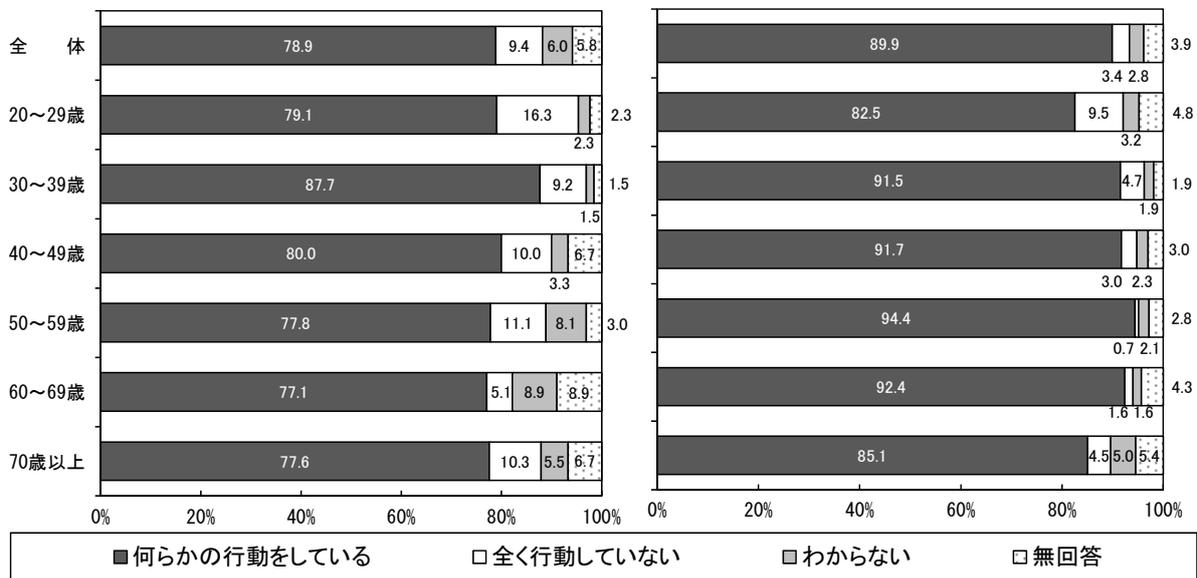


図 5.3 食べ物を無駄にしないための行動  
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男 性	620	43	65	90	99	157	165	1
女 性	851	63	106	133	143	184	221	1

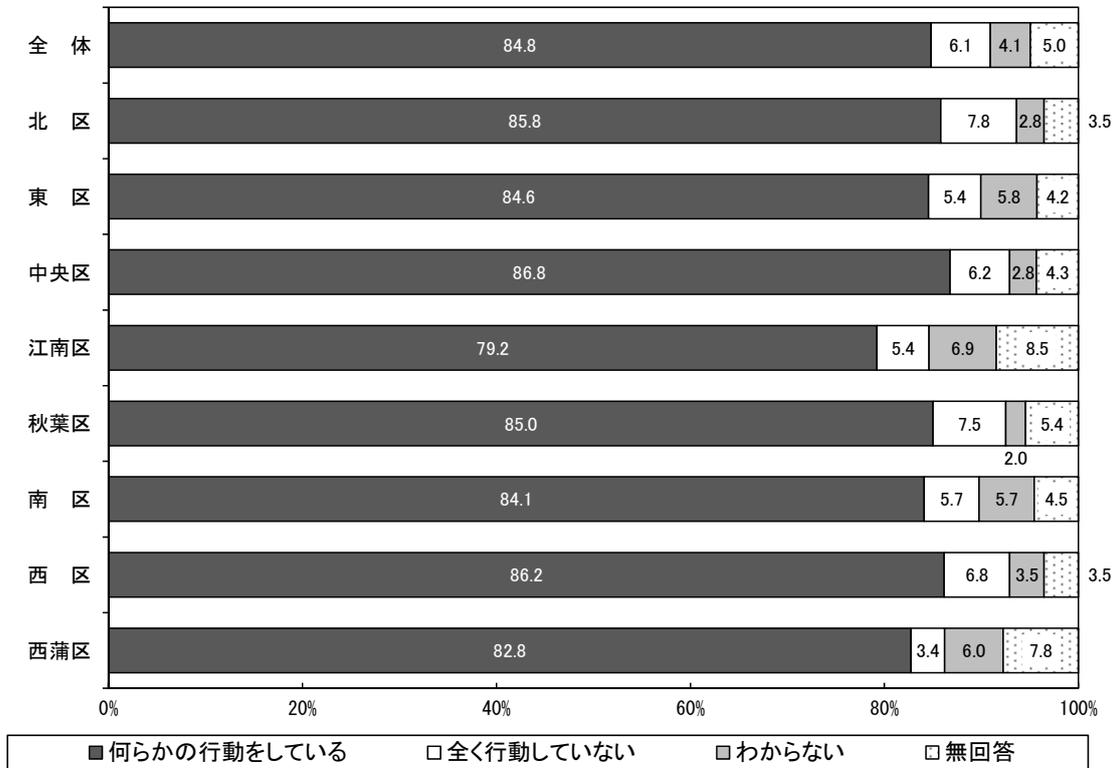
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、中央区（86.8%）で最も高く、9割弱となっている。江南区（79.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 5.4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

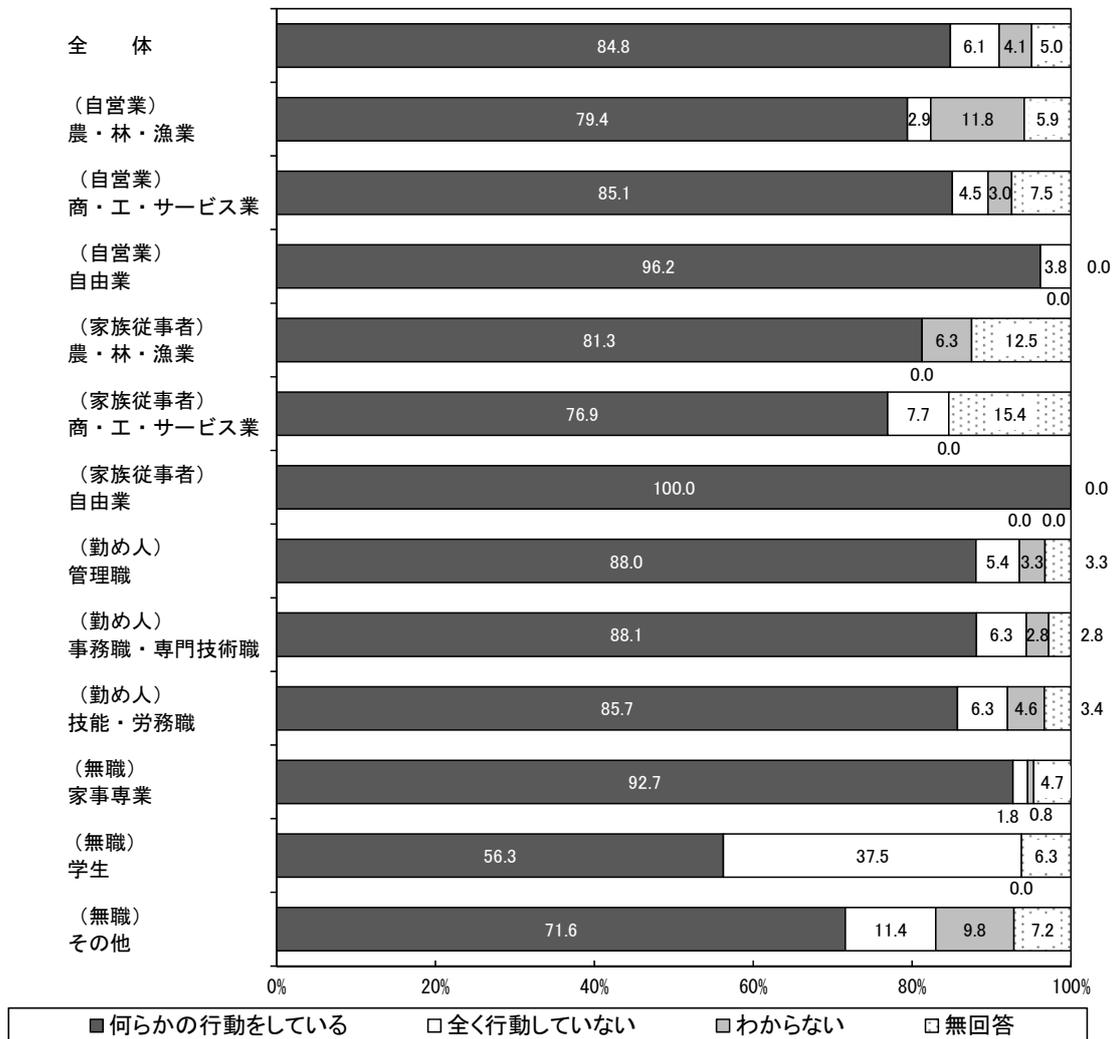
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

## 【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
1,534	34	67	26	16	13	13		
		勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
	92	319	238	383	16	264	53	

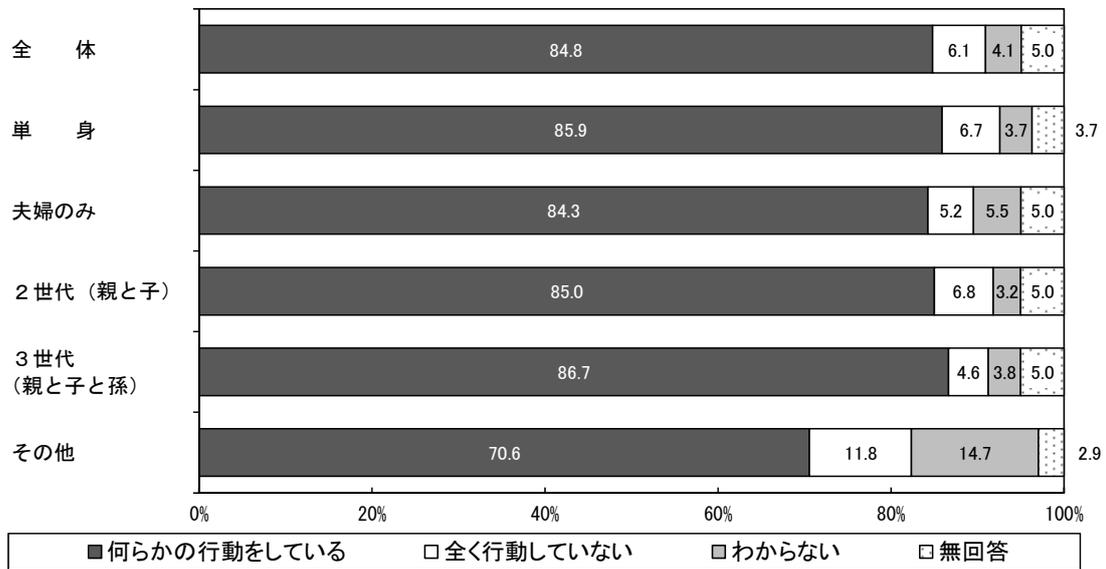
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

各家族構成ともに、「何らかの行動をしている」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 5.6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## (5) 伝統的な料理や作法の大切さ

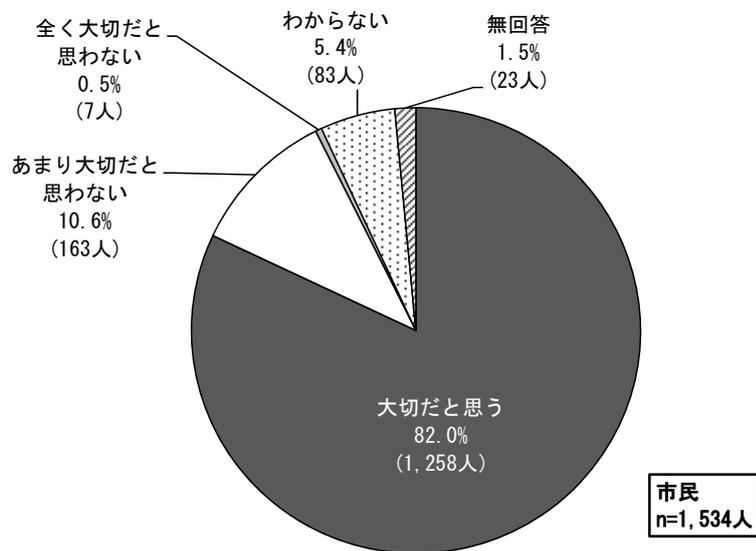
問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。  
(○は1つだけ)

8割強が「大切だと思う」と回答

## 【全体結果】

伝統的な料理や作法の大切さについては、「大切だと思う」(82.0%)と回答した人が最も多く、以下「あまり大切だと思わない」(10.6%)、「わからない」(5.4%)、「全く大切だと思わない」(0.5%)と続いている。

図6.1 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、40歳代（87.6%）で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。

性別では、「大切だと思う」割合は、30歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では女性の方が男性よりも高くなっている。

図 6.2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

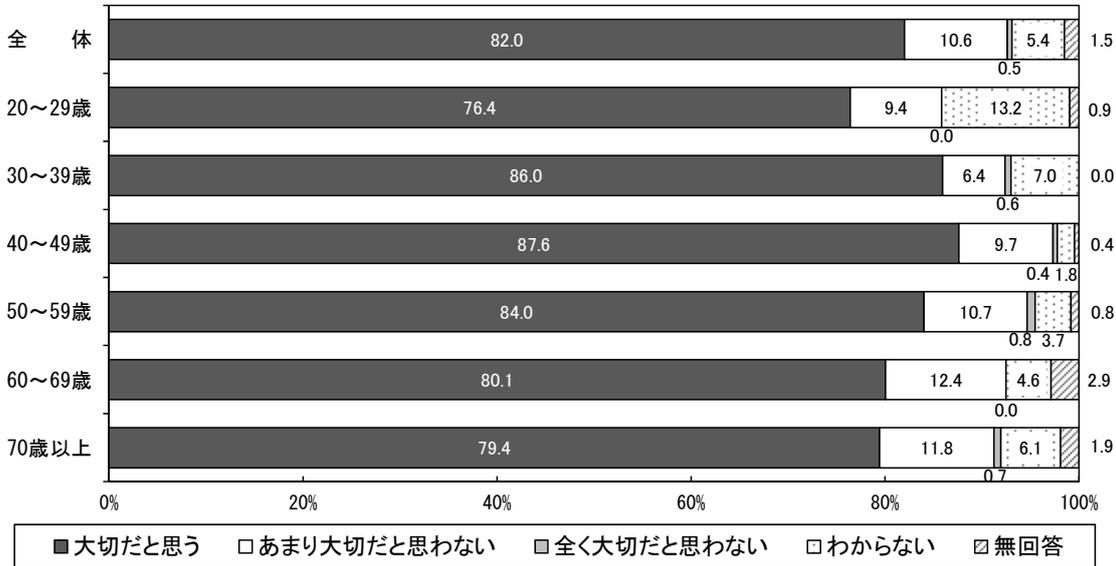
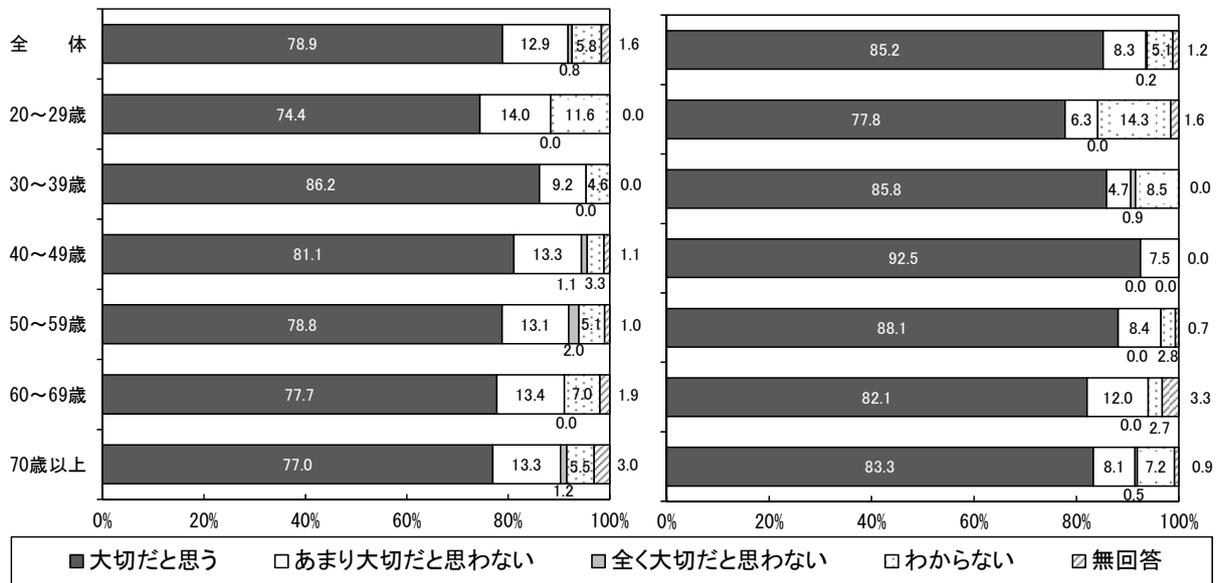


図 6.3 伝統的な料理や作法の大切さ  
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

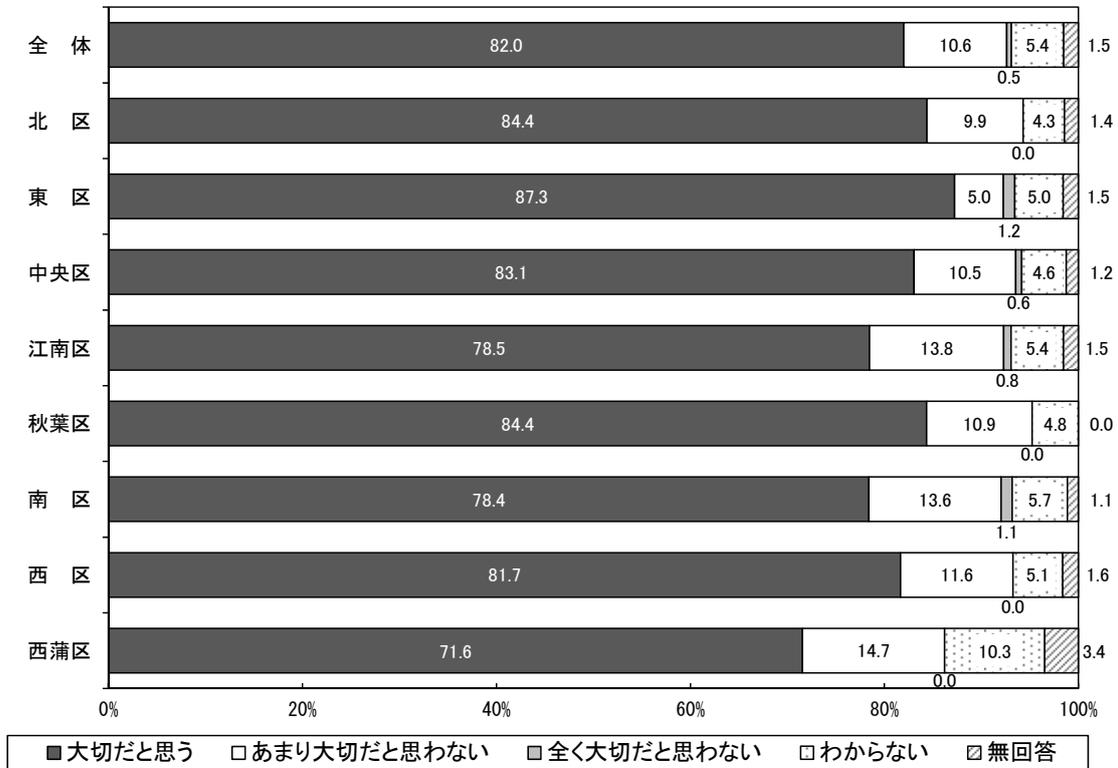
（人）

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、東区(87.3%)で最も高く、9割弱となっている。西蒲区(71.6%)では他の地区に比べ低くなっている。

図 6.4 伝統的な料理や作法の大切さ(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

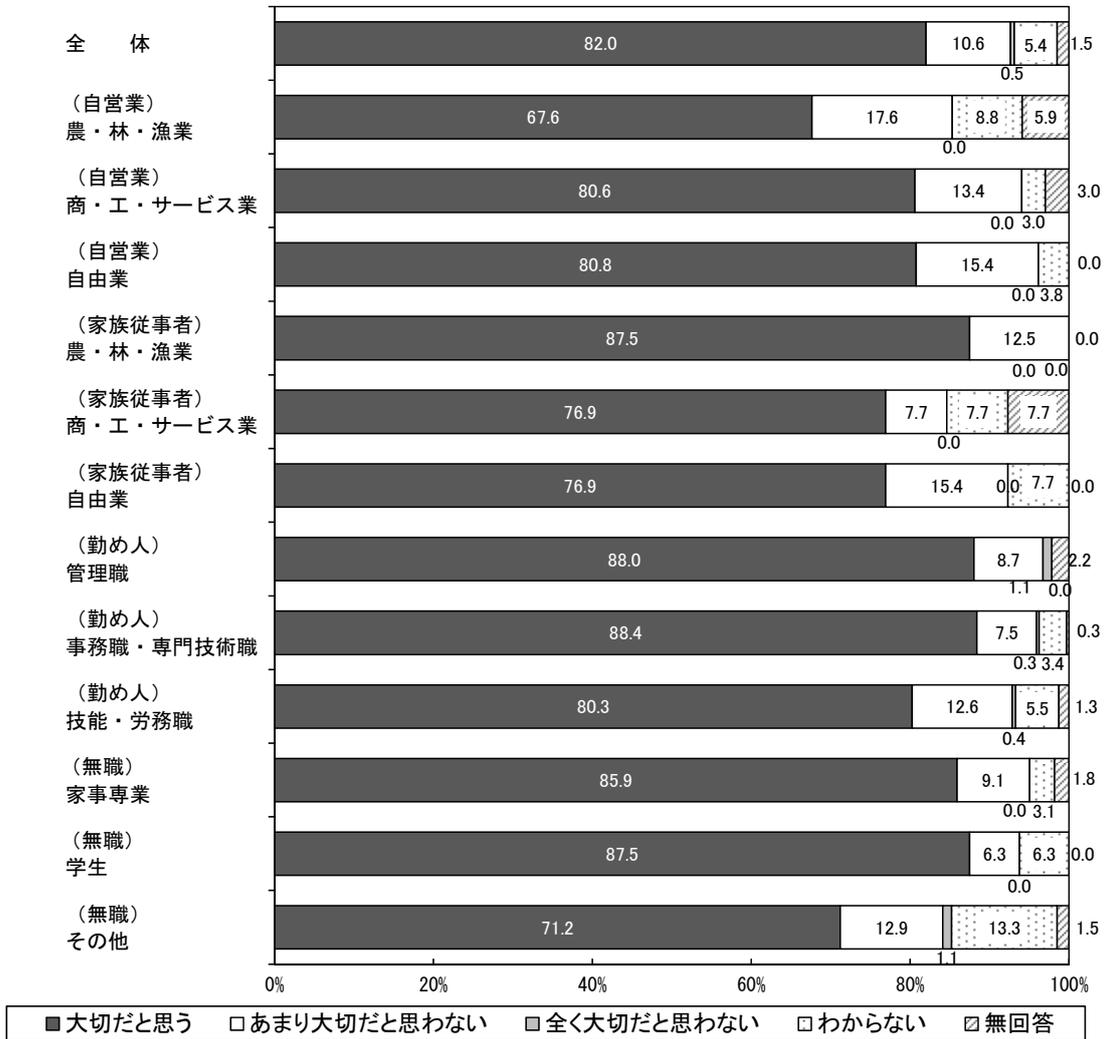
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6.5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人		無職				無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

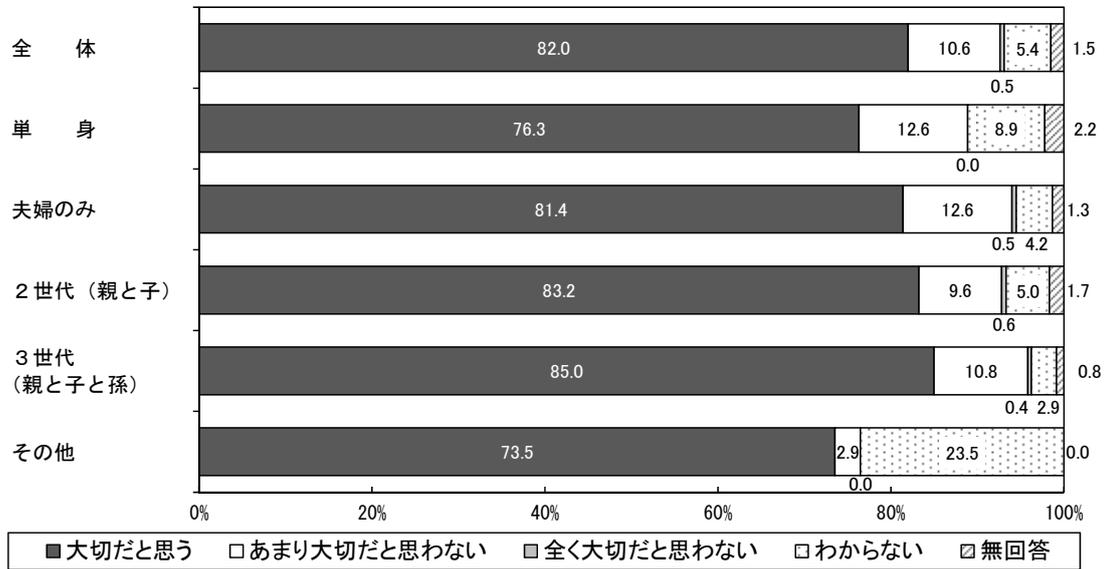
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

各家族構成ともに、「大切だと思う」と回答した人の割合が最も高くなっているが、単身（76.3%）とその他（73.5%）でやや低くなっている。

図 6.6 伝統的な料理や作法の大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## (6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

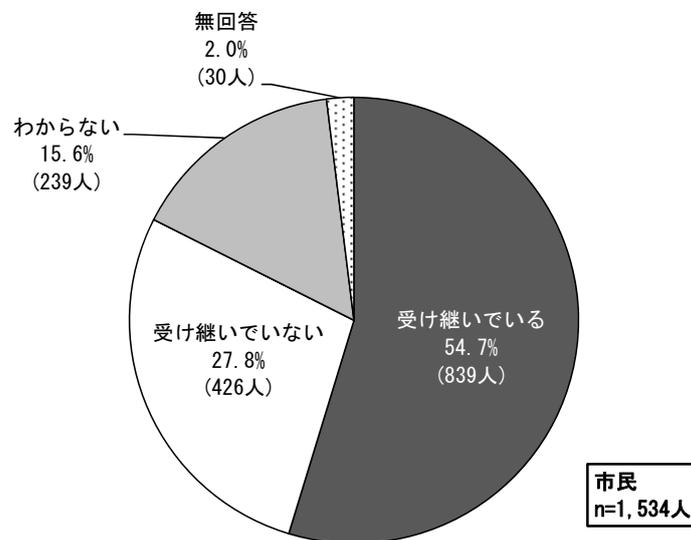
問 11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(○は1つだけ)

5割強が「受け継いでいる」と回答

## 【全体結果】

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいるかについては、「受け継いでいる」(54.7%)と回答した人が最も多く、以下「受け継いでいない」(27.8%)、「わからない」(15.6%)と続いている。

図 7.1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、40歳代以上で5割を上回っている。一方、「受け継いでいない」は30歳代と40歳代で3割強、「わからない」は20歳代で2割強となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 7.2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

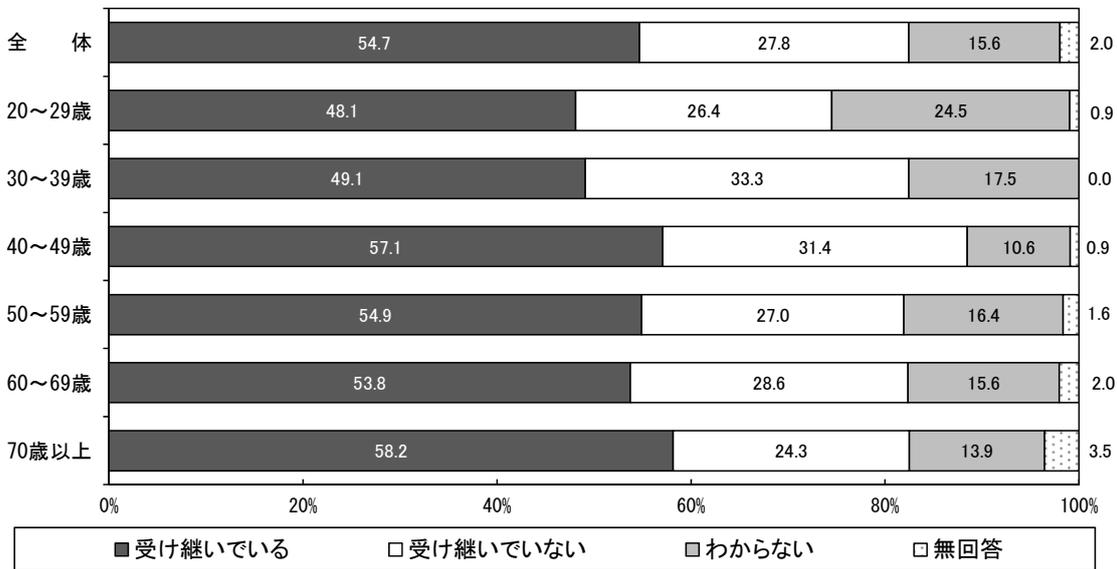
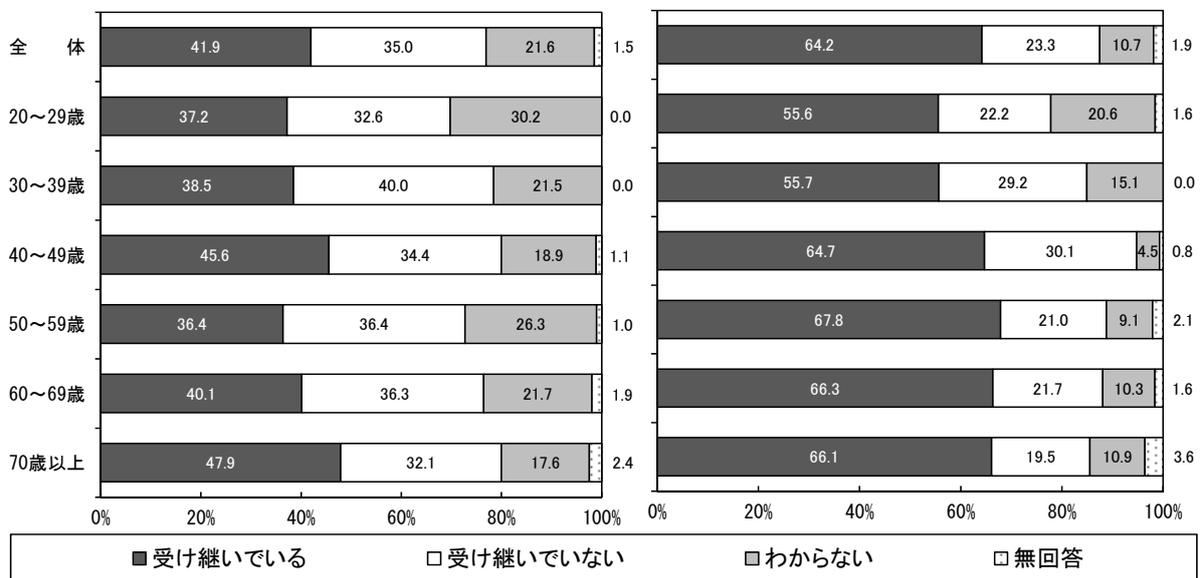


図 7.3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承  
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

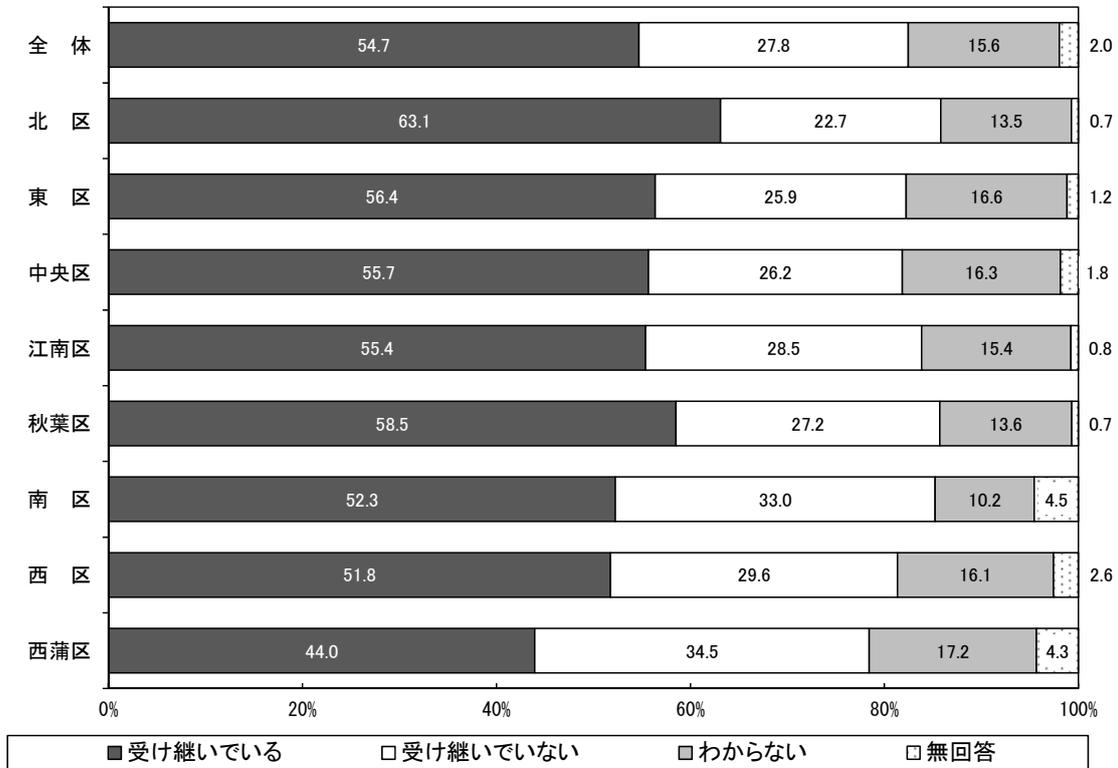
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、北区(63.1%)で最も高く、6割強となっている。西蒲区(44.0%)では他の地区に比べ低くなっている。

図7.4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

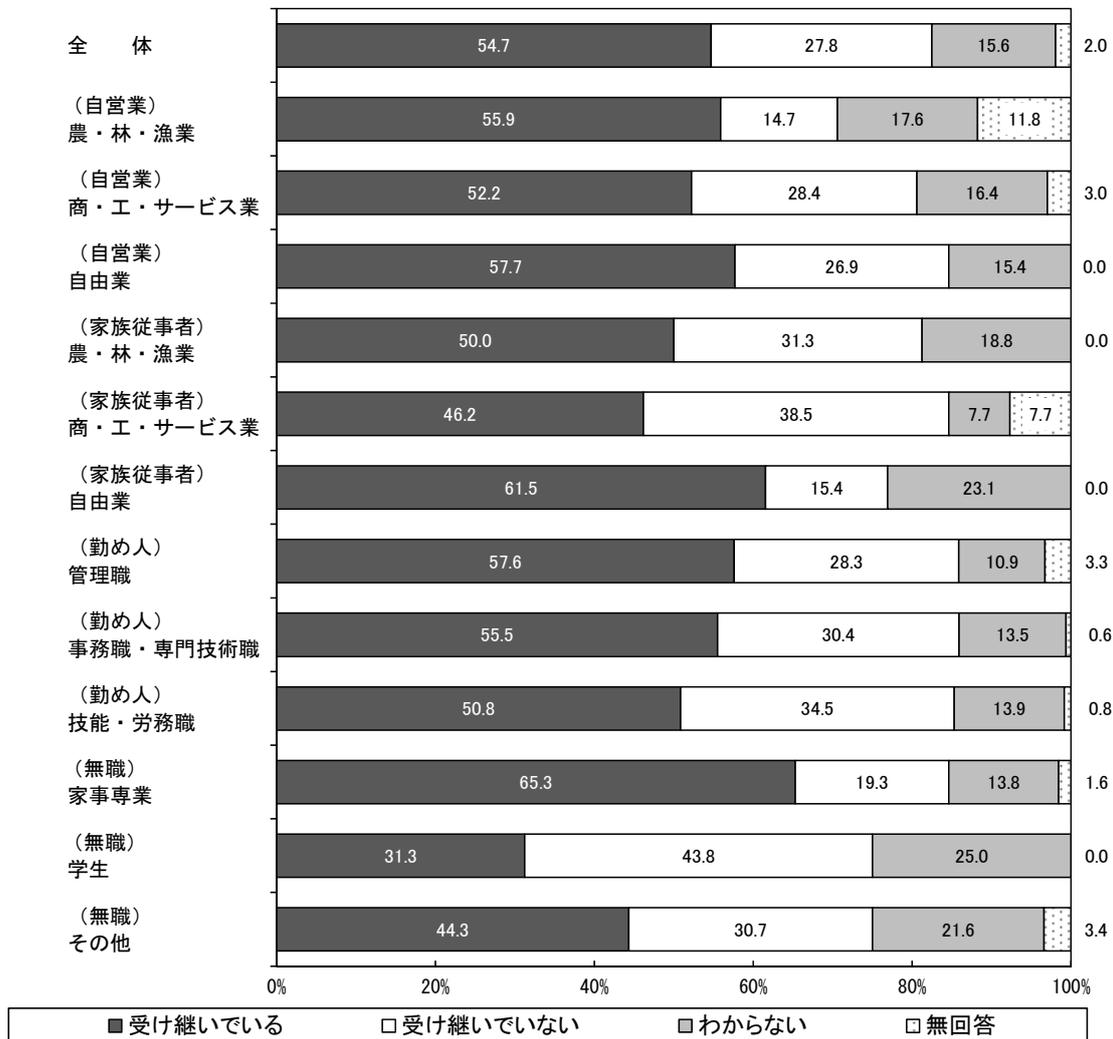
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

## 【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 7.5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

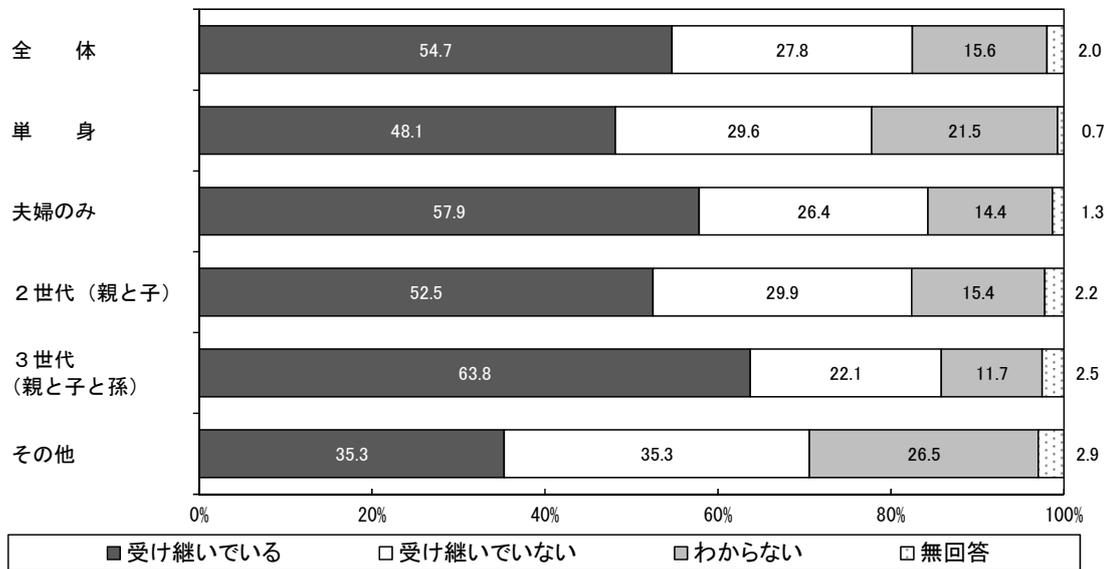
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、3世代（63.8%）で最も高くなっている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、単身（21.5%）とその他（26.5%）でやや高くなっている。

図 7.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## (7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

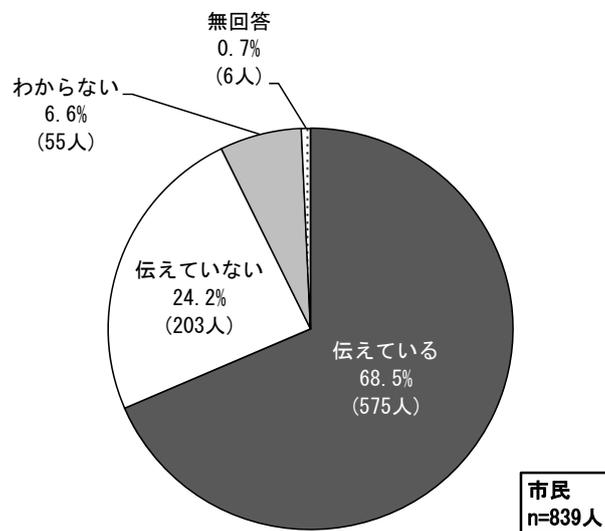
問 11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。（〇は1つだけ）

7割弱が「伝えている」と回答

## 【全体結果】

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えているかについては、「伝えている」（68.5%）と回答した人が最も多く、以下「伝えていない」（24.2%）、「わからない」（6.6%）と続いている。

図 8.1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなり、50歳代（78.4%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代（56.9%）で6割弱と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、50歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。また、「伝えていない」は20歳代で男女ともに6割弱となっている。

図 8.2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

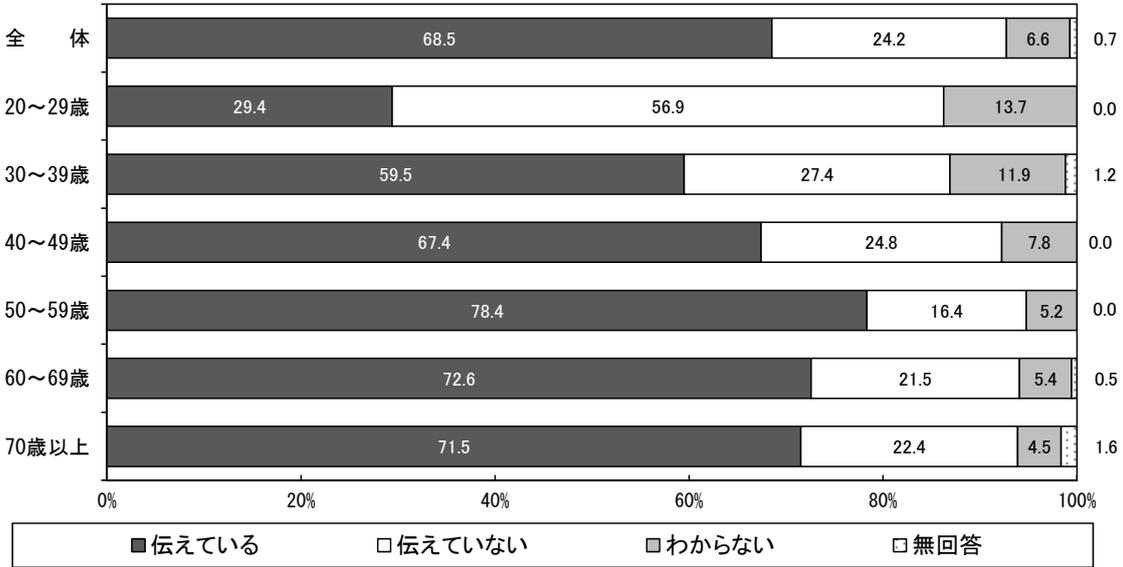
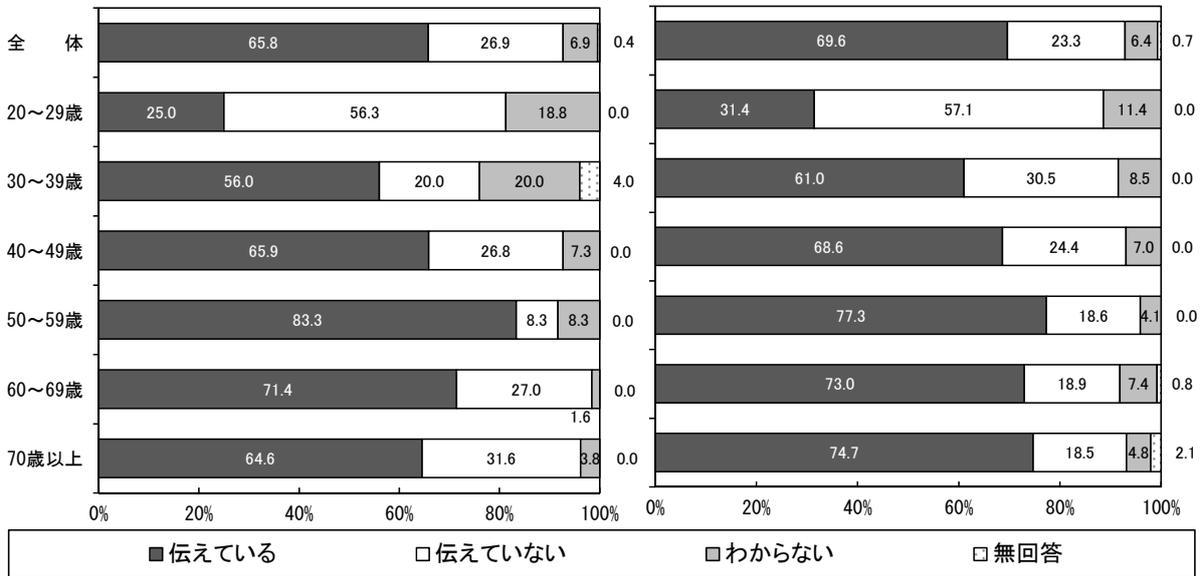


図 8.3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・男性）  
（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	839	51	84	129	134	186	246	9
男性	260	16	25	41	36	63	79	0
女性	546	35	59	86	97	122	146	1

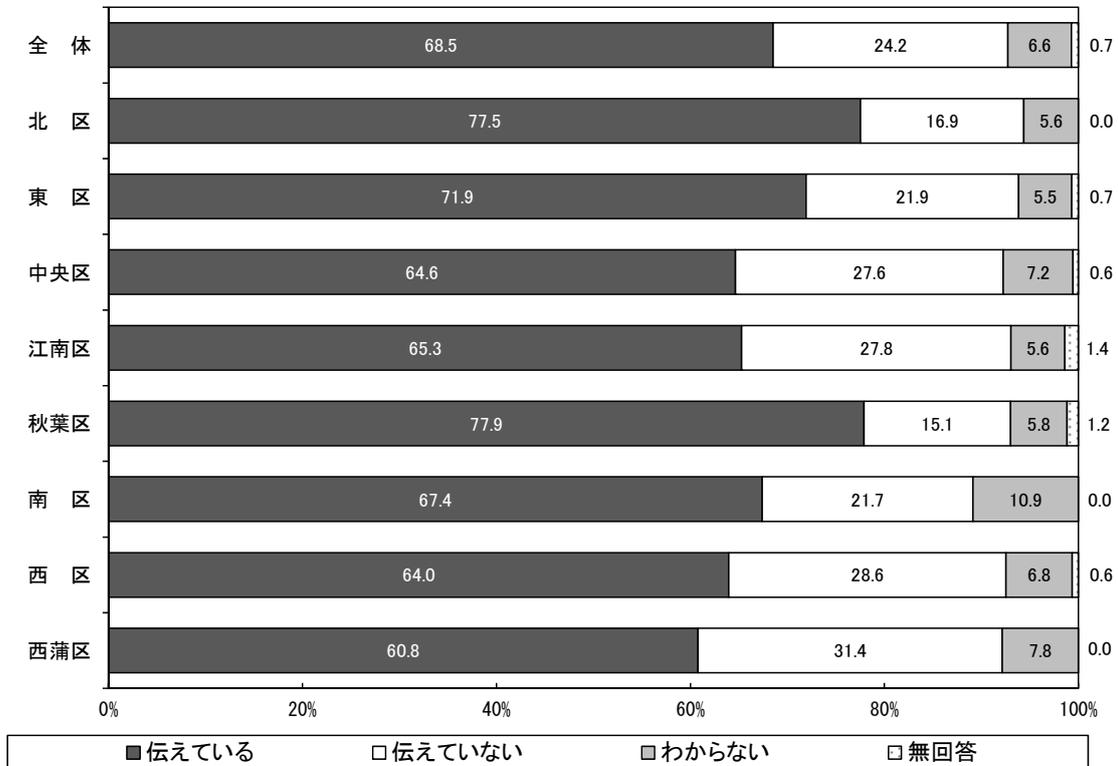
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、秋葉区（77.9%）で最も高く、次いで北区（77.5%）となっており、この2区で8割弱となっている。一方、「伝えていない」は西蒲区（31.4%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 8.4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
839	89	146	181	72	86	46	161	51	7

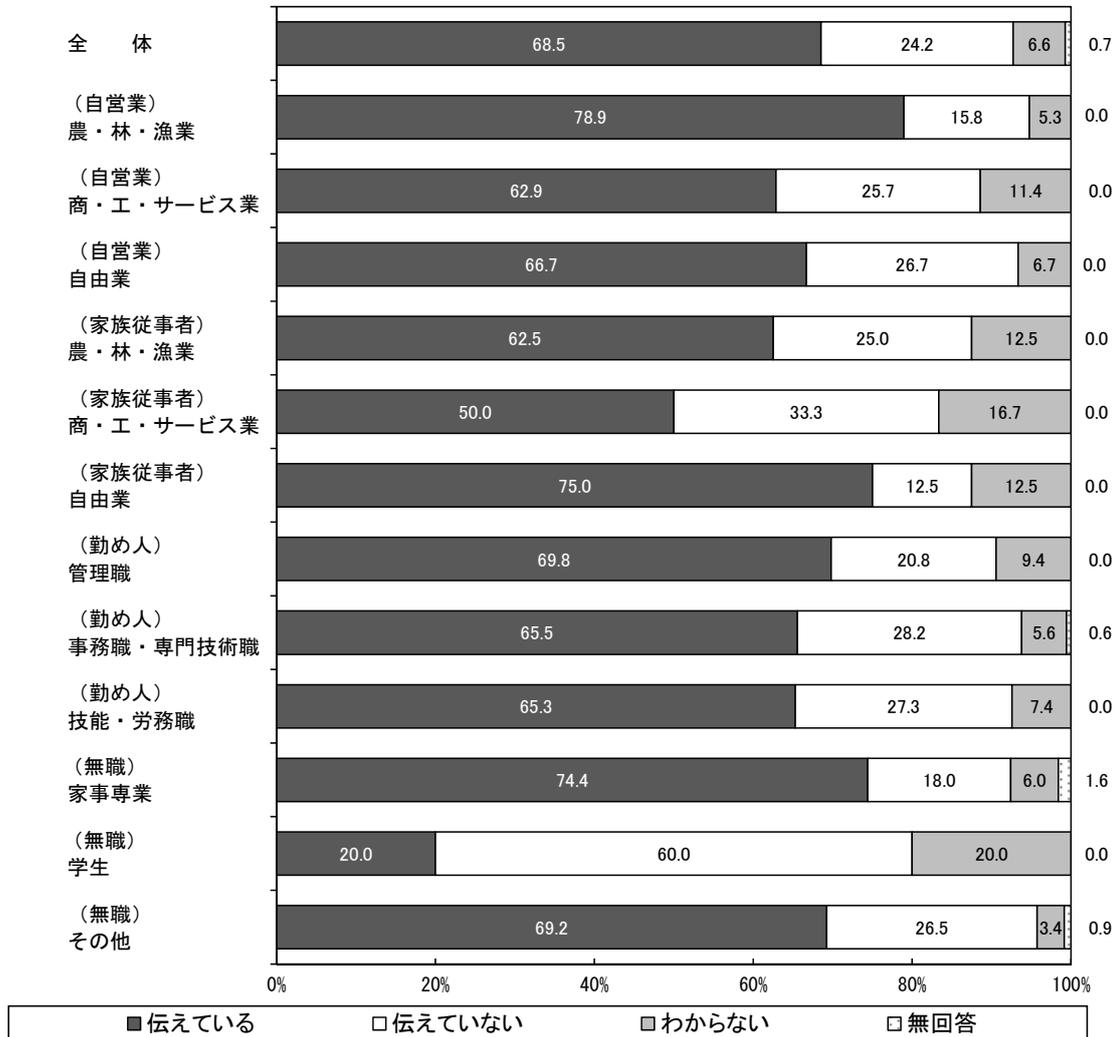
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

## 【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図8.5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
839	19	35	15	8	6	8	
勤め人			無職			無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
53	177	121	250	5	117	25	

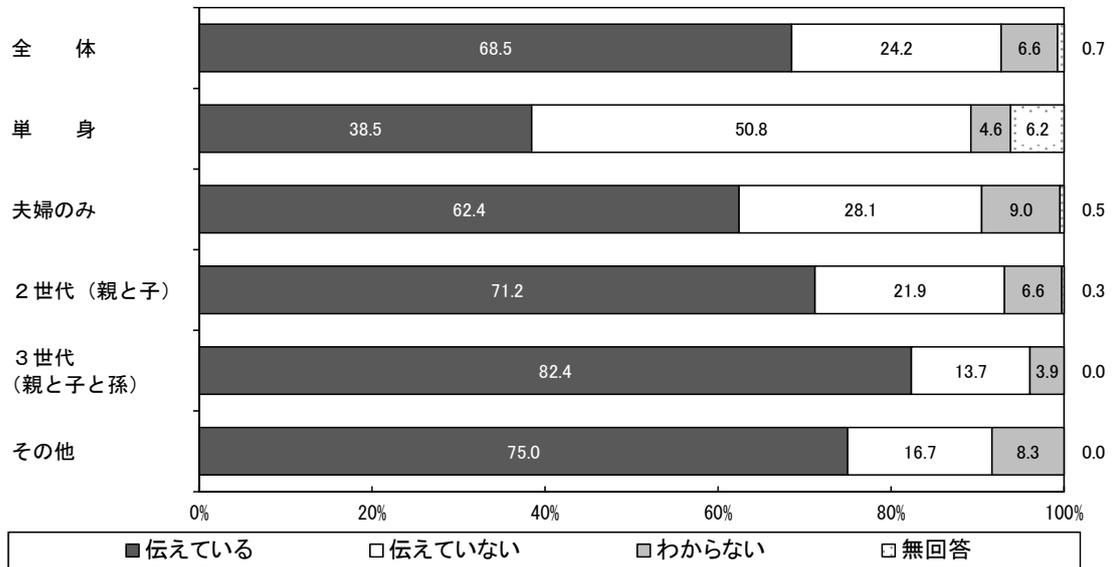
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、3世代（82.4%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（50.8%）で最も高くなっている。

図 8.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
839	65	221	379	153	12	9

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。